

信州型ゼロエネ住宅（仮称）指針 基準の設定等について（案）

資料1

項目	基本基準 ゼロエネルギー達成に向けて 最低限確保すべき基準	推奨基準 環境負荷の低減と快適性を 高次元で達成する基準	先導基準 環境負荷を極限まで抑えた チャレンジ基準
■ゼロエネルギー化の取組（エネルギーを大切に使う）			
<input type="checkbox"/> 省エネルギー（少ないエネルギーで快適な住まい）			
外皮性能基準	0.4～0.5 (ZEHレベル)	0.3～0.4 (ZEH+レベル)	0.2～0.23 (G3レベル)
気密性能基準	1.0以下		
再生エネを除いた一次エネ削減目標	20%以上	25%以上	30%以上
給湯設備の高効率化	エコキュート等		
換気	適切な換気計画（第1種、第3種）、 クールチューブによる地熱利用		
節水	節水トイレ、節水水栓、雨水利用		
照明	原則LED		
昼光利用	適切な開口部による昼光利用（単純開口部20%以上）		
HEMSの導入	新築時導入		
<input type="checkbox"/> 自然エネルギーの利用（積極的な創エネルギー）			
太陽光発電	ゼロエネ達成量の搭載 地域特性や近隣条件を検証し将来計画も含め原則として設置 ※十分な日照が望めない場合はバイオマスゼロ評価とする ※家電まで考慮する場合はバイオマスをゼロ評価とする		
太陽熱利用	太陽熱温水器（熱利用を積極的に検討）		暖房利用
■ゼロカーボン化の取組（ライフサイクルにおけるCO2の排出抑制）			
<input type="checkbox"/> 建設時等に出来るだけCO2を排出しない			
県産材の利用	構造材の6割	構造材の8割	
建材(断熱材等)のCO2削減の取組	特に負荷の高い建材の使用は控える		
木質バイオマスエネルギーの活用	※ペレット・薪ストーブ		
<input type="checkbox"/> 出来るだけ長く使い続ける住まいづくり・災害への備え			
長寿命化 耐久性	主要構造部の耐久性		
〃 平面計画	世帯構成の変化に対応可能な間取の可変性		
〃 維持管理	設備・配管の管理・更新の容易性、 住まい手への対応（維持管理履歴等）		
〃 高齢社会への対応	バリアフリー基準に適合（車椅子で生活可能なこと）		
耐震性能の基準 (災害があっても住み続けられる住まい)	壁量1.25倍 耐震等級2	壁量1.5倍 耐震等級3	
レジリエンス性の確保	ハザードエリア回避		蓄電池
■建築計画に関する取組（自立循環型住宅設計の取入れ等）			
配置計画	方位（日射取得）、卓越風の把握		
日射取得（冬）	南側に大きな開口部+日射取得型サッシ、 蓄熱の工夫		
日射遮蔽（夏）	南側に長い庇又はベランダ、 夏場のよしず等設置（住まい方）		
通風確保	主要な居室に2方向の開口部、通風経路の確保、 吹抜、引き戸、高窓、卓越風利用		
快適な空調設備	全館を1とした空調管理（吹抜、ヒートショック防止）		
気候変動への対応（酷暑）	躯体からの排熱の工夫、外付けブラインド		
景観・周辺環境への配慮	切妻又は寄棟、片流れの場合2/10まで		
外構・植栽計画	南側落葉中高木植栽、生態系への配慮		
伝統技能の活用 (左官壁、建具、畳、瓦)	積極的に取入れ		
多世帯同居	3世代同居対応、間取の可変性、広い間取り		
住まい方等	新たな働き方などへの対応、周囲とのコミュニケーションの工夫（土間、オープンガーデン等）、DXへの対応		